

# 速報 2号

# 学童保育の なかま 研究集会版

2018.01.28  
横浜学童保育  
研究集会  
速報班 発行

全体会参加：  
**281名** (内子ども23名)

素晴らしかった！  
開会行事



↑太尾学童クラブ(港北)      ↑屏風浦ちびっこの家(磯子)

☆**屏風浦**：舞台が終わって「緊張した？」と聞くと、声を揃えて「しない。笑っちゃった」と話してくれた。

☆**太尾**：練習の段階では大人はほとんど関わっていなかったが、子ども達だけでここまで踊れるようになったことはすごいし、今後も続けていってほしい。

←旭・瀬谷合同チーム

☆**合同チーム**：ダンスの衣装も藍色の絞り染めのTシャツも「自分でビー玉を使って染めたんだよ」。緑色のTシャツの子は「このウサギのロゴも自分で考えたんだ」。

## \* 全体会講演 \*

### 「祖父母からみる、 いまどきの子育てと自分育て」

中央大学法学部教授 **広岡守穂先生**



記念講演は、大学での学生の様子から感じた最近の若者の様子や、「孫育て」を通して感じたこと、学生結婚した当時の楽しく、時には苦い経験を通して出来上がった夫婦関係など、ご自身の人生を語りながら、その中に様々な教訓や教えを導かれました。

最近の若者は自分の考えていることが上手に表現できない傾向にあるが、それは夫婦関係にもつながっており、夫婦なのに「心の内が言えない」関係が生まれてしまう。そして、共に子育てをする中で夫婦関係にも微妙にズレが生じてくる。夫・妻それぞれ感謝の気持ちを表わす時、特に夫が妻に対する感謝の気持ちを具体化しようとした時、相手の一番求めているものが実際には見えていないことになってしまう。

#### 「自分育て」を支え合う

子育てをする中であっては「自分育て」がおろそかになってしまう…特に妻の場合。それを支えていく

のが夫の役割。妻の心を如何に理解していくか…。「子育て援」は、「女性の人生を支援」することが、子育て支援の根本なのです。

#### ダイヤモンドの思い出作り

親は子どもをどこまでも愛していくことが出来る。それだけではなく、例えば学童の指導員が、地域の中の近くの方の中に「自分のことを見てくれる人がいる、分かってくれる人がいる」ということが、子どもの中にダイヤモンドのような輝く思い出を作ってくれるのです。自分たちでそんな思い出を作っていきましょう。



記念講演を熱心に聞き入る参加者



★ 開会行事 ★

・リズムカルに行うけん玉は、学童の遊びとしてはもちろん、自宅でも楽しく行えそうなのでトライしてみようと思います。(篠原学童クラブ・保・岡本寛)

・子どもたちが一生懸命練習したダンスやけん玉、コマなどの大技がとても素敵で、楽しむことができました。(第2どんぐり学童クラブ・保・西村卓真)

・とても楽しく素敵でした。みんなで練習している姿が想像できて、学童の良さを実感しました。(西柴学童保育・保・木下亜由美)

・それぞれのクラブで個性あふれる出し物でした。毎回の楽しみのひとつです。これからも続けて取り組んでほしいです。(立場はればれクラブ・保・澤田美枝子)

・可愛らしかったです。ダンスにけん玉、長なわ・・・学童の中で練習したのでしょうか？素敵でした！！(みつばち学童クラブ・保・和田千春)

★ 基調報告 ★

・学童の状況がわかり良かったです。保護者にできることもまだまだありそうですね。無限の可能性を秘めた子どもたちの為に、これからも指導員と力

をあわせて盛り上げていけたらと改めて思いました。(中田東たいようクラブ・保・遠藤紀子)

・子どもたちが安心して放課後の生活が送れるのは、やっぱり学童しかない・・・と思います。子どもたちとのかかわりを考えると。(たまプラーザ学童保育クラブ・指・赤堀幸子)

・学童に通えない。でも家には誰もいない家庭が実際に見受けられます。もっとすべての子どもが安全に放課後から夜の親が帰るまでの間に楽しく過ごせる場所の充実に貢献できればと思います。保護者の方にももっと伝わってほしいと思います。(中丸やまぼと・保・佐藤奈美)

★ 全体会講演 ★

・「孫ストレス」はじめて聞いた言葉ですが、まさに私を取り巻く環境に近いと思い、深く感銘しました。夫婦で対応しなければいけないと思いつつ夫より頼りになる親へお迎えをお願いしてしまう。病気の時も親に頼ってしまう。そんな時、親の都合を考えていないことが多いです。親は娘に頼られたら“NO”とは言いづらい。その言葉にハッと気づく、そんな講演でした。(みつばち学童クラブ・保・堀場絵美)

・講師の先生の体験を通じて、夫婦間といえどもなかなか気づかないコミュニケーションもあるものだと感じさせられました。(別所学童・保・山崎靖之)

・実体験を通じたお話しで共感する部分が多く、大変すばらしい講演を聞かせて頂きました。「自分育て」「他人

に見てもらっていたという体験・気づき」とても大切な観点だと思いました。ありがとうございました。(ひばりの子学童クラブ・保・山本浩平)

・エピソードを通じて、強い愛情を感じました。「子育てと仕事の支援」という表面的なものではなく、“女性の人生の支援”とおっしゃっていた言葉にとても勇気づけられると共に、私も支援員として皆さんの人生の支援をしていくサポートができると良いなあと思いました。(どんぐり学童クラブ・指・田中円)

・自分の考えをごまかさず。相手に伝えることで周囲からの理解を得る。親ではない大人が子どもの存在を認めてあげることの大切さ。貴重なお話しで勉強になりました。(わんぱくハウス・保・三塚麻友美)

・歌で泣かされてしまいました！仕事で学生と話していて、ひよわな学生がいっぱいいるな～と思いながらお話を聞いておりましたが、コミュニケーションがきちんと取れていない、ひよわなのは私だとショックを受けました(家庭内だけですが)。あとはいつも誰かにダイヤをあげられるおばちゃんになりたいと思いました。ありがとうございました。(長津田南学童保育クラブ・保・柴田晶子)

・親が子どもにできることの限界と、子どもが感じるダイヤモンドの輝きの思い出。大切にしたいことは、地域社会全体の中で見つけていく子ども自身の成長である！皆で支えていきたいと感じました。(上大岡学童クラブ・保・塚原良輔)

第4分科会

子どものやる気を引き出す魔法の質問。講師や世話役も加えると60人を越える最大の分科会。



第7分科会

楽しい保護者会。小保方会長によるスライドを用いた説明。全国からみると横浜市の保護者会は少数。

第12分科会 野毛山動物園

飼育員さんからのスライドによる説明。かめの甲羅ってたくさんの種類があるんだね。



第6分科会 障害児の放課後の過ごし。参加は大人29人。パネリストによる説明。

第8分科会 子どもの安全なケータイ・スマホの使い方。講師による説明。講師や世話役も含め20人参加。「炎上」とは。

